

記者発表（資料配付）				
月/日 (曜日)	担当課(室) 係名	TEL	発表者名	その他 配布先
3/6 (金) 11時	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 (神戸防災キャンパス)	078-891-7376 (直通) 078-731-4416	兵庫県立大学大学院減災復興 政策研究科教授 加藤 恵正 (客員研究員 小沢 康英)	県政記者クラブ

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科(地域経済指標研究会) 第9回神戸マラソンの経済波及効果を推計

減災復興政策研究科（地域経済指標研究会）では、この度、第9回神戸マラソンの経済波及効果を推計しましたので公表します。第9回神戸マラソンは、「感謝と友情」をテーマに、「する・みる・ささえる」が一体となった大会として、ランナー（20,320人）、沿道応援者（610,000人）、ボランティア（6,851人）をはじめ、すべての大会関係者が、「ありがとう」の気持ちを伝えあい、阪神・淡路大震災からの復旧・復興における経験と教訓、兵庫・神戸の魅力の国内外への発信に貢献しました。マラソンへの参加や応援活動には、移動・飲食・買物・宿泊などの経済的な効果が伴いました。本調査では、神戸マラソン及びマラソン EXPO 参加者の観光消費を主体とした経済波及効果について推計を行いました。

推計結果：兵庫県内に及ぼす経済波及効果(生産誘発額) 80.0 億円

第9回神戸マラソンの経済波及効果概要

(単位:億円、人)

項目	兵庫県	神戸市	備考
生産誘発額	80.0	73.4	経済効果(売上額の合計)
直接効果	54.2	47.3	最終需要額
第一次間接効果	14.7	14.0	原材料消費から誘発効果
第二次間接効果	11.1	12.1	民間消費支出による誘発効果
付加価値誘発額	44.2	39.4	(売上額－経費等)の合計
名目GDP	213,097	67,900	平成30年度速報
名目GDP比(%)	0.02	0.06	
就業者誘発数	863	662	個人業主、雇用者等

(資料)兵庫県「平成27年兵庫県産業連関表」、神戸市「平成23年神戸市産業連関表」

推計の前提として関連行事等の実績値や第9回神戸マラソンに係る「参加者(ランナー)に関する調査」、「応援・観覧者の動向に関するアンケート調査」の観光消費単価等のデータを用いて最終需要額(県内直接効果 54.2 億円)を推計した。経済波及効果は「平成27年兵庫県産業連関表」、「平成23年神戸市産業連関表」を使用し、産業連関分析により兵庫県内及び神戸市内経済波及効果(直接効果及び第1次間接効果、第2次間接効果)を推計した。

※詳細は、資料「第9回神戸マラソンの経済波及効果」資料を参照してください。

照会先 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授 加藤 恵正 (TEL 078-891-7367)
客員研究員・神戸女子大学文学部 准教授 小沢 康英 (TEL 078-731-4416)
客員研究員・兵庫県企画県民部統計課 参事 芦谷 恒憲 (TEL 078-362-4123)

第9回神戸マラソンの経済波及効果について

兵庫県立大学地域経済指標研究会

令和元年11月17日に第9回神戸マラソンが開催された。神戸マラソン開催は、地域住民のスポーツを通じた健康増進、また阪神・淡路大震災からの復興へ手を差し伸べていただいた方々への感謝の気持ちの表明・国内外の被災地域への経験・教訓の発信に貢献した。こうした健康増進や震災復興への感謝といった社会的意義に加えて、神戸マラソンは、ランナー・観客など県内外から多数の来訪者があることから、来訪者の移動・飲食・買物・宿泊などの経済的な効果が伴う。神戸マラソンには、20,320人のランナーが参加し、コース沿道にも、ランナーの家族や知人、マラソン愛好家、地域の住民など、色々な方々が観戦・応援に集まった。神戸マラソンの開催にあたっては、大会が盛り上がるよう、参加者受付・E X P O、沿道応援イベント（若松公園<鉄人28号>、舞子公園、ノエビアスタジアム神戸）などさまざまな併催事業が行われた。

また、大会が円滑に開催されるよう、主催側の準備運営、ボランティアや警備員等の役割も欠かせない。こうしたランナーや沿道の観客、主催側の準備運営などがそれぞれ消費支出を伴う活動を行う。以下では、第9回神戸マラソン大会開催時の経済波及効果に限り推計を行なった。

1 マラソン参加者、沿道応援者等の概況

第9回神戸マラソン参加ランナーは、20,320人であった。沿道応援者は610,000人で前回と比べ横ばいであった。（表1、3）

神戸マラソンE X P O 2019会場来場者数は、30,000人（前回比500人増）、集客イベント（若松公園、ノエビアスタジアム神戸、市民広場）は、43,000人（同500人増）であった。ボランティアは、ランナー配付物の封入、E X P O会場でのランナーの受付、マラソンコースでの給水・給食・沿道整理、ランナーの救護、手荷物預かり返却等であり、E X P O会場を含め、6,851人（同43人増）が参加した。（表3、4）

表1 大会参加者・完走者の推移 (単位:人、%)

区 分	第6回	第7回	第8回	第9回	第8回比増減
参加者(フルマラソン)(A)	19,570	19,709	20,395	20,320	▲ 75
完走者(フルマラソン)(B)	18,806	18,947	19,562	19,444	▲ 118
完走率(%) C=B/A	96.1	96.1	95.9	95.7	▲ 0.2

(出所)神戸マラソン実行委員会資料

出走者数(20,320人)のうち、兵庫県内は、7,992人(前回比940人減)で全体の39.3%を占める。地域別の増減を見ると、海外は、991人で前回比177人減、兵庫県を除く近畿(5,295人)は、前回比123人増であった。（表2）

表2 地域別出走者数の推移

(単位:人)

区分	第6回	第7回	第8回	第9回		第8回比増減	
					割合(%)		
北海道	126	106	97	377	1.9	280	
東北	282	224	248	275	1.4	27	
関東	1,912	1,792	1,804	1,821	9.0	17	
中部	1,413	1,153	1,201	1,476	7.3	275	
近畿	兵庫県	7,857	7,882	8,932	7,992	39.3	▲ 940
	その他	5,674	5,566	5,172	5,295	26.1	123
	計	13,531	13,448	14,104	13,287	65.4	▲ 817
中国	657	681	633	760	3.7	127	
四国	604	667	591	673	3.3	82	
九州・沖縄	467	490	549	660	3.2	111	
海外	578	1,148	1,168	991	4.9	▲ 177	
合計	19,570	19,709	20,395	20,320	100.0	▲ 75	

(出所)神戸マラソン実行委員会資料

イベント別来場者数は、EXPO来場者数(30,000人)は、前回は500人増で、集客イベント等(3箇所)は、43,000人で同500人増、沿道応援者数は610,000人で10,000人増であった。(表3)

表3 イベント等来場者数の推移

(単位:人)

区分	第6回	第7回	第8回	第9回	第8回比増減
EXPO来場者数	27,500	28,500	29,500	30,000	500
集客イベント(3箇所)(注)	43,000	41,500	42,500	43,000	500
沿道応援者数	600,000	600,000	600,000	610,000	10,000
沿道応援イベント団体	118	114	127	116	▲ 11

(注)集客イベント:若松公園、ノエビアスタジアム神戸、市民広場

(出所)神戸マラソン実行委員会資料

ボランティア参加者は、6,851人で、前回と比べ43人増であった。(表4)

表4 ボランティア参加人数

(単位:人)

区分	第6回	第7回	第8回	第9回	第8回比増減
EXPO等	704	708	694	670	▲ 24
マラソン当日	6,560	6,363	6,114	6,181	67
計	7,264	7,071	6,808	6,851	43

(出所)神戸マラソン実行委員会資料

2 消費支出額(最終需要額)の推計

経済効果推計範囲は、交通費、宿泊費支出、商業・飲食等の関連消費のほか、新たな消費活動による生産活動が含まれる。推計の対象期間は令和元年11月15日～17日に関連事業費は令和元年度分を含めて推計した。

来訪者の飲食・買物などの消費活動は、他の産業の生産を誘発する。例えばレストランで食事をすれば、料理に使用される野菜や肉・魚(農業・水産業)、調味料、パン(食料品工業)など関連した産業の需要につながる。こうした経済波及効果を兵庫県内は「平成27年兵庫県産業連関表」、神戸市内は「平成23年神戸市産業連関表」を用いて推計する。消費支出額は、「参加者(ランナー)向け調査」、「応援者向け調査」などから消費支出額を下記により推計した。

(1) 消費支出額の推計

観光消費支出額は、一人当たり消費額(参加者・沿道応援者等)×参加者数により推計した。観光客一人当たり消費額は、「参加者(ランナー)に関する調査」(神戸大学大学院人間発達環境学研究所生涯スポーツ研究室)、「応援・観覧者の動向に関するアンケート調査」(神戸山手大学現代社会学部西村研究室、阪南大国際観

光学部長谷川研究室及び神戸マラソン実行委員会事務局WEB調査)を使用した。
 1人当たり消費単価は、大会参加者(ランナー)は県内では減少、県外では増加、沿道応援者は、神戸市内では減少、兵庫県内、関西地域等の地域で増加した。
 また、居住地別では、消費単価が低い神戸市内の近隣地域の割合がやや上昇した。

表5 参加者、沿道応援・観覧者消費単価

(単位:円)

区分		第6回	第7回	第8回	第9回	第8回比増減
大会参加者 (ランナー)	県内	4,116	5,690	6,666	4,406	▲ 2,260
	県外	27,766	28,764	31,655	33,608	1,953
※居住地の重複 なし	応援観覧者 近隣(神戸市同区)	3,976	4,610	5,319	4,884	▲ 435
	神戸市内(除近隣)	4,696	4,810	5,183	5,639	456
	兵庫県内(除神戸市)	5,796	4,610	6,585	7,877	1,292
	関西地域	8,243	5,861	7,322	10,588	3,266
	その他県外	17,625	36,930	33,891	36,431	2,540

(出所)神戸マラソン実行委員会・兵庫県立大学地域経済指標研究会推計資料

(参考)神戸マラソン観覧者居住地別割合

(単位:%)

居住地	第8回	第9回	9回-8回
近隣(神戸市同区)	28.0	30.0	2.0
神戸市内(除近隣)	18.0	17.2	▲ 0.8
兵庫県内(除神戸市)	23.8	25.8	2.0
関西地域	18.0	16.4	▲ 1.6
その他県外	12.3	10.6	▲ 1.7
合計	100.0	100.0	—

(出所)兵庫県立大学地域経済指標研究会推計資料

(2) 最終需要額の推計

消費支出額は、大会参加者(ランナー)は4.1億円、沿道応援者は78.7億円、ボランティアは2.0億円で計84.8億円である。うち兵庫県内は50.3億円、神戸市内は40.2億円である。(表6)

表6 項目別消費支出額

(単位:億円)

項目	大会参加者 (ランナー)	応援観戦者	ボランティア	計	うち	
					兵庫県内	神戸市内
交通費	1.8	18.1	1.1	21.0	11.0	7.1
宿泊費	0.9	18.5	0.0	19.4	1.7	1.3
飲食費	0.8	16.3	0.4	17.5	15.4	15.2
土産代	0.4	4.6	0.1	5.1	4.3	4.0
その他	0.2	12.0	0.4	12.6	11.7	9.8
事前購入	—	9.2	—	9.2	3.2	2.9
合計	4.1	78.7	2.0	84.8	47.1	40.2

(出所)兵庫県立大学地域経済指標研究会推計(表章単位未満四捨五入のため合計値と内訳数値和が一致しない)

神戸マラソンの周辺整備や運営・維持管理費、安全対策や情報発信など運営関連経費として支出された。これらの活動に伴う事業費等(7.1億円)を加算した最終需要額は、91.9億円である。(表7)

表7 神戸マラソン最終需要額(国内)の推移

(単位:億円)

項目	第6回	第7回	第8回	第9回	第8回比増減
消費支出額	48.2	50.4	72.5	84.8	12.3
大会参加者(ランナー)	3.5	4.1	4.1	4.1	0.0
沿道応援観戦者等	44.7	46.3	68.4	80.7	12.3
大会運営費	5.9	6.2	6.3	7.1	0.8
合計	54.1	56.6	78.8	91.9	13.1
推計実施機関	兵庫県立大学	兵庫県立大学	兵庫県立大学	兵庫県立大学	

(出所)神戸マラソン実行委員会・兵庫県立大学地域経済指標研究会推計

3 経済波及効果推計結果

経済波及効果は、神戸マラソン実行委員会事務局から提供のあった関連資料や各種経済統計データにより、兵庫県及び神戸市を対象に、「平成27年兵庫県産業連関表」、「平成23年神戸市産業連関表」から、産業連関分析により推計した。経済波及効果（生産誘発額）は、兵庫県内で80.0億円、神戸市内で73.4億円である。原材料費等経費を除いた付加価値誘発額は、兵庫県内が44.2億円、神戸市内が39.4億円である。

（表8、表9、経済波及効果の内訳：参考表1（兵庫県内）、参考表2（神戸市内））

表8 第9回神戸マラソンの経済波及効果概要 (単位:億円、人)

項目	兵庫県	神戸市	備考
生産誘発額	80.0	73.4	経済効果(売上額の合計)
直接効果	54.2	47.3	最終需要額
第一次間接効果	14.7	14.0	原材料消費から誘発効果
第二次間接効果	11.1	12.1	民間消費支出による誘発効果
付加価値誘発額	44.2	39.4	(売上額－経費等)の合計
名目GDP	213,097	67,900	平成30年度速報
名目GDP比(%)	0.02	0.06	
就業者誘発数	863	662	個人業主、雇用者等

(資料)兵庫県「平成27年兵庫県産業連関表」、神戸市「平成23年神戸市産業連関表」

表9 神戸マラソン経済波及効果(兵庫県内)比較 (単位:億円、人)

区分	第6回	第7回	第8回	第9回	第8回比増減
開催日	2016年11月20日	2017年11月19日	2018年11月18日	2019年11月17日	
参加者	19,570	19,709	20,395	20,320	▲ 75
沿道応援観戦者	600,000	600,000	600,000	610,000	10,000
直接効果(県内分)	48.3	51.5	55.5	54.2	▲ 1.3
生産誘発額	70.5	74.7	80.6	80.0	▲ 0.6
付加価値誘発額	39.3	40.9	45.2	44.2	▲ 1.0
就業者誘発数	822	882	922	863	▲ 59
使用産業連関表	H23年県産業連関表	H23年県産業連関表	H23年県産業連関表	H27年県産業連関表	
推計実施機関	兵庫県立大学	兵庫県立大学	兵庫県立大学	兵庫県立大学	

(出所)神戸マラソン実行委員会資料、兵庫県立大学地域経済指標研究会

4 今後に向けて

神戸マラソン開催に伴い、地域のスポーツ・健康に係わる関心、ボランティアマインドやホスピタリティマインドが高まった。こうしたランナーへのおもてなしの心が、今回走ったランナーのリピーターとしての次回以降への参加につながる。他方、地域の人々の関心の深まりや支持の強まりが大会の個性の確立につながる。マラソン開催により参加者を中心としたスポーツ・健康関連消費を拡大するという効果がある。この効果を継続し、より一層高めていくためには、新たなマラソン参加者の確保やマラソン参加者や県民の関心・ニーズに見合った魅力あるソフト・サービスの維持・充実などが求められる。

参考表1 第9回神戸マラソンの経済波及効果(兵庫県内)

(単位:百万円、人)

部門	最終需要額	生産誘発額	付加価値誘発額	就業者誘発数	雇用者誘発数
1 農業	56.0	76.3	34.5	20	4
2 林業	0.0	2.0	1.5	0	0
3 漁業	0.0	12.0	6.2	1	0
4 鉱業	0.0	1.8	0.7	0	0
5 飲食料品	51.6	212.0	71.0	7	7
6 繊維製品	342.3	351.3	129.7	58	42
7 パルプ・紙・木製品	0.0	14.1	4.6	0	0
8 化学製品	0.0	19.1	6.3	0	0
9 石油・石炭製品	0.0	17.8	3.0	0	0
10 プラスチック・ゴム製品	0.0	10.3	3.8	0	0
11 窯業・土石製品	0.0	3.3	1.5	0	0
12 鉄鋼	0.0	2.9	0.5	0	0
13 非鉄金属	0.0	1.0	0.3	0	0
14 金属製品	0.0	6.5	2.8	0	0
15 はん用機械	0.0	4.4	1.8	0	0
16 生産用機械	0.0	5.1	2.2	0	0
17 業務用機械	0.0	6.4	2.3	0	0
18 電子部品	0.0	3.8	1.3	0	0
19 電気機械	0.0	9.2	3.1	0	0
20 情報通信機器	0.0	3.8	1.3	0	0
21 輸送機械	0.0	13.0	4.0	0	0
22 その他の製造工業製品	100.1	115.7	46.7	9	6
23 建設	0.0	29.1	12.9	2	2
24 電力・ガス・熱供給	0.0	219.4	67.7	1	1
25 水道	0.0	48.1	22.6	1	1
26 廃棄物処理	0.0	62.3	38.2	4	4
27 商業	177.1	443.7	294.2	70	65
28 金融・保険	0.0	167.5	108.0	6	6
29 不動産	0.0	423.2	355.8	6	6
30 運輸・郵便	1,113.2	1,300.1	837.6	94	89
31 情報通信	0.0	89.3	46.8	4	4
32 公務	0.0	12.4	8.7	0	0
33 教育・研究	0.0	42.1	30.6	3	2
34 医療・福祉	0.0	68.2	41.4	6	6
35 他に分類されない会員制団体	0.0	29.5	16.9	4	3
36 対事業所サービス	706.6	1,061.6	633.9	127	107
37 対個人サービス	2,875.1	3,065.1	1,559.0	440	368
38 事務用品	0.0	13.4	0.0	0	0
39 分類不明	0.0	35.5	15.2	0	0
40 合計	5,422.2	8,002.2	4,418.8	863	723

(資料)兵庫県統計課「平成27年兵庫県産業連関表」

参考表2 第9回神戸マラソンの経済波及効果(神戸市内)

(単位:百万円、人)

部門	最終需要額	生産誘発額	付加価値誘発額	就業者誘発数	雇用者誘発数
1 農林業	51.6	64.5	32.3	19	3
2 酒類	0.0	32.6	20.6	0	0
3 その他の食料品	47.6	196.0	61.4	9	9
4 繊維製品	170.8	170.8	61.1	42	34
5 製材・木製品・家具	0.0	1.2	0.4	0	0
6 ゴム製品	0.0	1.2	0.5	0	0
7 化学製品	0.0	8.0	2.1	0	0
8 鉄鋼	0.0	3.6	0.6	0	0
9 金属製品	0.0	2.4	0.8	0	0
10 はん用機械	0.0	3.6	1.2	0	0
11 生産用機械	0.0	1.6	0.6	0	0
12 業務用機械	0.0	1.1	0.3	0	0
13 電子部品	0.0	0.3	0.1	0	0
14 電気機械	0.0	0.7	0.2	0	0
15 情報・通信機器	0.0	4.4	1.0	0	0
16 造船	0.0	0.1	0.0	0	0
17 その他の輸送機械	0.0	10.6	2.9	0	0
18 その他の製造工業製品	236.6	274.5	83.5	14	13
19 建設	0.0	64.5	27.7	5	3
20 電力・ガス・水道業	0.0	207.0	63.9	3	3
21 商業	163.1	413.6	272.8	45	43
22 金融・保険	0.0	140.8	88.5	5	5
23 不動産	0.0	386.7	303.1	6	5
24 港湾サービス業	0.0	4.2	1.9	0	0
25 港湾以外の運輸	730.0	1,027.5	578.4	75	71
26 情報通信	0.0	153.8	77.2	5	5
27 教育	0.0	33.1	27.6	4	4
28 研究	0.0	22.8	13.9	0	0
29 医療	0.0	30.3	16.1	1	1
30 保健衛生・福祉・介護	0.0	28.5	19.4	5	5
31 その他の非営利団体サービス	0.0	63.3	37.1	5	5
32 対事業所サービス	706.6	1,099.1	676.7	107	91
33 宿泊業	130.1	133.5	60.6	10	10
34 飲食サービス	1,515.1	1,598.0	662.3	167	125
35 その他の対個人サービス	974.6	1,094.1	719.2	135	92
36 公務	0.0	14.1	9.5	0	0
37 事務用品	0.0	11.6	0.0	0	0
38 その他	0.0	1.8	0.0	0	0
39 分類不明	0.0	37.2	14.5	0	0
合計	4,726.0	7,342.9	3,939.9	662	527

(資料)神戸市政策調査課「平成23年神戸市産業連関表」